整理番号

ＡⅡ－３　　3584

標題名

日本菌類図説　第１巻　第１篇　上

著者名

田中延次郎、田中長嶺

製作年月

2012年3月

日本菌類圖說

第一卷
第一編上

MYCOGRAPHIA NIPPONICA.

ILLUSTRATIONS
OF
EDIBLE, POISONOUS, AND PARASITIC
FUNGI OF NIPPON

BY
NOBUJIRŌ TANAKA AND NAGANE TANAKA.

VOL.I. NO.I. PART I.

追次出版 一名 日本きのこの名とき

甲類 有毒菌之部第一集

目次

へうたけ 第一版
どくべにたけ 第二版
いつぽんしめぢ 第三版
すつぽんたけ 第四版

V.P.
NO
病理部

日本菌類圖說

一名　日本きのこのゑとき

緒言

我が日本の、菌類の種類は富むことは、普久人の知る處で、即ちまつだけ、しひたけ等の如く、我國固有の名產にて、未だ歐米諸國は、產することを聞かぬものが、夥多ありまして、從て昔より、有毒菌、及び食用菌として、世は知られたものも亦多く、往々、食毒の區別を誤り、中毒した例もあり、亦微細なる菌類、即ち黴類などは、菌類であるか、なきかをさへ、知らぬものもあります、これと云ふのも、畢竟我國には、菌類の形狀、及び性質等を、詳は記した書が、少きゆへでありませぬ、依て我國は產する菌類を普く集め、一部の書物として、世は示すことを思ひ立ちましたが、其種類極めて夥しく、數年の后でなければ、之を果すことが出來ませぬ故、さし向き、必要の種類のみを撰み、仮は之を甲乙の二類に大別し、即ち甲類を有毒菌、食用菌、有用菌等の諸部に分ち、乙類を害菌の部とし、各部中の重なるもの數種を撰ミて、甲乙の二類を、上下一編とし、同時は編を追て出版し、五編を合せて一卷とし、卷毎に總目錄を添へ、見出しの便に供へ、凡三卷十五編にて、了る事としました。

甲類有毒菌の部中には、中毒の徵候あるものを揭げ、食用菌の部中には、食して害なきものを揭げ、有用菌の部中は、釀母菌、藥用菌等の、有用のものを揭げ、種毎は着色圖を添へ、其名稱、形狀、產地、季節、及性質等を明は記し、食毒の區別を、容易く見分ることに務め、且つ菌類の功用を示しました。

乙類害菌の部中には、專ら有用の動、植物、及び食用品等は寄生して、加害の甚しきものを揭げ、各種の名稱、形狀、季節、驅除法案、及び加害の狀況等を實見して、之を圖畫とし、菌類學を修めぬ仁にても、容易く解し得る樣に務め、菌害を驅除する便りに供します。

明治廿三年八月

著者述

日本菌類圖說第一卷第一編　上

甲類　有毒菌之部第一集

○

見出し

菌類名稱	圖版番号	解說丁數
へうたけ	一	一
どくべにたけ	二	二
いつぽんしめぢ	三	三
すつぽんたけ	四	四

○

＊〔一〕第一版

へうたけ（田、延新稱）（植物學雜誌第十八号一七〇丁）蓋ニ豹紋樣の班点ある故ニ名附く。てんぐたけ、はへとりたけ、へびきのさ、等の名あり。

＊ひだ（襭）科　植物學雜誌第卅八号以下ニ分類表あり。

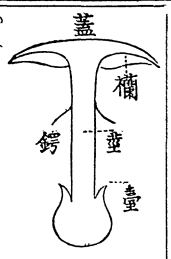
＊〔へうたけ〕

Amanita pantherina *DC.* (Hyō-take.)

＊ひだ科　しろみ類　へうたけ屬

形狀

蓋（かさ）。中高、次第に張て廣がり、黑ミある鳶色、徑り三寸乃至五寸、平たき白点あり、緣ち肉薄く條あり、濕れば稍々粘り氣を帶び、乾けハなめし革のはだの如き手ざはり



子實　通常の植物の種子に等しけれども中に胚なき故之れと區別せ、襴の外面に生ずる粉狀のものを云ふ、第一版(ミ)は五百倍に廓大した狀、同(タ)ハ其着き工合を示す。

*宮報一千号、千二十一号、千三百〇二号、千五百七十号及ひ東京醫學會雜誌第三卷一号、十一号、十二号、同四卷二号猪子吉人氏の日本の有毒菌類第一編、三編、五編を見よ。

*㊁第二版　どくべにたけ(新稱)　形通常のべにたけに似て毒ある故に名附く。

となる外皮の下部肉白し。

襴(ひだ)　白く、密に生じ、長短あり、一方巾狹く、岐無し。

莖(くき)　高さ五六寸、徑り四五分、外面に柔かささゝくれあり、内部ハ綿の如きものにて充ち、后に空となり、殆んど滑らになる。

鍔(つば)　緣ち下に垂れ、柔く、白し。

臺(だい)　殆んど滑ら、緣ちのみはなれ、其他ハ莖に着く。

子實(み)　白色、卵形、中に小さき球あり。

産地　林中に生し、殊に松柏科植物の、木蔭を好む。

季節　夏秋。

*有毒　往々中毒者あり、蠅を殺せに用ふ。

*どくべにたけ

Russula emetica *Fr.* (Doku-beni-take.)

ひだ科　しろみ類　べにたけ屬

形狀

蓋　肉質、初生のものハ稍々粘す氣あす、滑らにて半球

形、次第に張て廣がて徑て二寸乃至五寸、艶にり、中央凹み、緣ち肉薄く條あり、紅淡紅、紫青、黃赤色或ハ殆んど白色のものもにり、剝ぎ得る柔らさ外皮にり、其下部の肉白し。

襴　岐なく長短なし、巾廣く、肉厚く、白く、あらく生じ、稀に短かさ襴を交え或ハ岐にり。

莖　高さ二寸乃至三寸、硬く、白色或ハ蓋と同樣の色どりにて、襴との間に溝あり內部海綿樣に充ち、后ち稍々空を生す。

子實　金米糖の如き形て白し。

產地　林中に稀に生ず。

季節　六月より十一月に至る。

有毒　中毒者あり、甚だ苦く食へば嘔吐す。

いつぽんしめぢ

Entoloma sinuatum *Fr.* (Ippon-shimeji.)

ひだ科　あかみ類　いつぽんしめぢ属

三 第三版

*官報千号及千三百号を見よ。

四 第四版

形狀

蓋　中高、次第に張り廣がり、稍々上にろり、肉質、淡紅灰色、或ハ淡黃を帶び、徑り四五寸、頭尖らず、粉狀を帶び、乾き、多少波狀をなす。

襴　殆んど莖に達し、甚だ巾廣く、密ヨ生じ、殆んど岐無く、淡灰紅色。

莖　高さ三寸乃至六寸、徑り六分乃至一寸、纖維質、稍凸凹あり、本ヤ稍々太く、蓋と同じ色ヨて淡く、白色を帶ぶ内部全く充ち、其質密にて强し。

產地　山間の林中に生ず。

季節　九月より十月に至る。

有毒　*中毒者あり、臭氣あり。

すつぽんたけ

ふくろ科　すつぽんたけ屬

Ithyphallus impudicus (*L.*) *Fries.* (Suppon-take.)

形狀

蓋　圓く尖り、頂ゟ小孔あり、黑みある綠色網の目の狀をなし緣ち悉く莖を離る。

莖　白く、高さ五六寸、徑り一寸許、鮫肌、質脆く燒麩の如し、首尾稍々細く中心空胴。

*毬。　白く、鷄卵の大さ、內外二層の皮膜あり、中に眼肉の如き透明の液あり、**熟すれば毬の上部裂け、莖を抽く、臭氣甚し、下部に白く細き菌糸の紐あり。

子實。　黑みある鳶色の綠色長圓形細小。

產地　屢林中に生ず。

季節　九月より十一月に至る。

有毒　***惡臭ある故食せず。

*第四版(タ)
°子實　解前ゟあり
第四版(ミ)

**植物學雜誌第一号一三丁すつぽんたけの生長と題する條を見よ。

***スミス氏の Mushrooms and toad—stools 第六四丁を見よ。

へうたけ

Amanita pantherina *DC.*

どくべにたけ

Russula emetica *Fr.*

いっぽんしめぢ

Entoloma sinuatum *Fr.*

すつぽんたけ

Ithyphallus impudicus (*L.*)*Fries*.

明治二十三年八月十五日印刷
同　年八月　日出版

著者　東京府平民　田中延次郎
　　東京府北豐島郡南千住町
　　元千住南組六番地寄留

著者兼發行者　新潟縣平民　田中嶺
　　東京府南豐島郡澁谷村
　　元中澁谷村六百廿八番地寄留

印刷者　松田彌太郎
　　東京市日本橋區呉服町
　　五番地

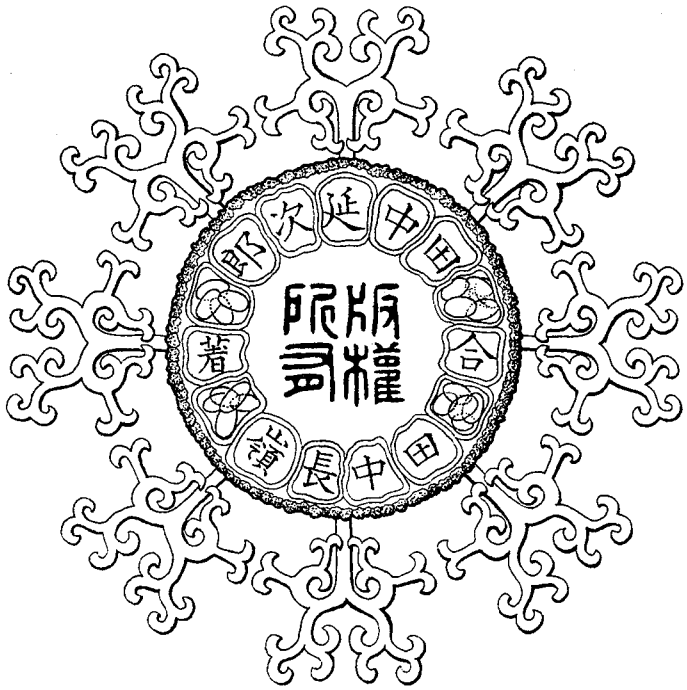
發行所　丸善商社書店
　　東京市日本橋區通三丁目
　　十四番地

賣捌書肆

東京神田裏神保町　敬業社
同　本郷四丁目　敬業社支店
同　神田表神保町　中西屋邦太
同　新橋竹川町　共益商社支店
同　銀座四丁目　博聞社
京都河原町通二條下　大黒屋書店
大坂北久寶寺町四丁目　丸屋書店
同　備後町四丁目　梅原龜七
同　南久寶寺町四丁目　前川善兵衞
名古屋京町一丁目　村松五郎
金澤片町　益智舘
熊本新二丁目　長崎次郎

長崎引地町　鶴野常造
同　酒屋町　安中半三郎
佐賀白山町　河内壯介
柳川瀨高町　宮本宗四郎
久留米米屋町　菊竹儀平
鹿兒島六日町通中町　吉田幸兵衞
高知種崎町　澤本駒吉
同　堺町　山中專助
廣島横町　松村善助
岡山上之町　細謹舍
松江天神町　川岡清助
富山東四十物町　中田書店

新瀉古町通六番町　櫻井產作
津大門町　河島九右衞門
飯田池田町　奥村收藏
靜岡江川町　廣瀨市藏
濱松紺屋町　谷島屋源三郎
仙臺國分町　高藤書店
山形七日町　五十嵐太右衞門
函館末廣町　魁文社
神戸相生橋　熊谷久榮堂
松山湊町　土肥與兵衞
青森米町　成田泰
横濱辨天通四丁目　丸屋書店


版權所有
中田
合
田中
長讀
著
郎次
延